みらいつうしん

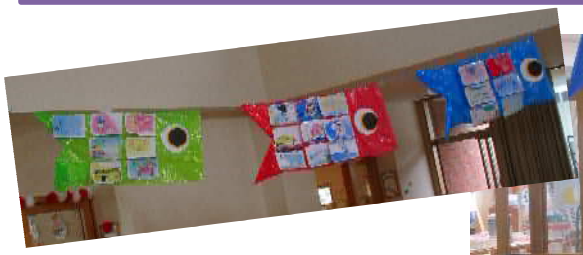
5月号

２０２４年５月１日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長　勝浦芳子

☆心のよりどころを求めて☆

さくらの季節から、あっという間に青葉が美しい季節になりました。園庭の鯉のぼりも澄みきった青空を爽やかな風に誘われて気持ちよさそうに泳いでいます。子ども達も、登園すると、「ワ～鯉のぼりだ！」と指をさして喜んでいます。中には、こいのぼりが心のよりどころになっているお子さんもいて、みんなの「元気の基」になっています。鯉のぼりは、元々「黄河の急流に竜門と呼ばれる滝があり、その滝を登ろうと多くの魚が試みたものの登れたのは鯉だけで、登り切った鯉は竜になった。」という中国の故事が元になっています。その、力強さや生命力に肖って、日本では、特に、男の子が、様々な困難に打ち勝って、大成する立身出世の象徴として端午の節句に飾られます。現在では、男女関係なく、「子どもの日」として成長を祝い、竜は天の神様と伝われていることから、神様が皆のところに来て貰えるための目印として飾られているとも言われています。また、兜も、どんな災難や困難から身を守れるように、強い象徴として飾られます。みらいこども園の子ども達も天の神様に見守られ、これからも逞しく育って欲しいと願います。

さて、入園・進級してから、１ヶ月余りが経ちました。新入園児は、当初、保護者の方と離れる際に、不安の気持ちから、「ママ―！」「お家に帰りたい」と泣いて自分の思いを表現するお子さんや上のお子さんを探して安堵を求めるお子さん、気に入った保育者にしがみついて何とか自分の気持ちを紛らわすお子さんなど、タイプは様々ですが、自分のよりどころを必死に探している光景が見られました。その一方、いろいろな場所や進級児の遊びに興味関心をもって、積極的に活動して、「楽しいね～、面白いね！」と園生活をエンジョイしているお子さんもいます。一人一人の思いは、それぞれですが、日に日に楽しみを見つけては、笑顔が増えてきました。きっと保護者の皆様の陰のサポートもあったことと感謝いたします。給食も、好き嫌いはあるものの、みんなで一緒に食べるという環境に少しずつ慣れ、「全部食べたよ」「美味しい！おかわり」というお子さんもいて、とても嬉しく思います。これからも子ども達の笑顔がたくさん見られるよう職員一同、環境づくりに努めたいと思います。進級児の様子も見てみますと、新しい環境に戸惑うこともありますが、自分の遊びの中で、一歩譲ったり、困っている子のお世話をしたりという姿も見られ成長を感じます。特に乳児のクラス前には、心配そうに、妹弟たちを見守るお兄さんお姉さんがいて，微笑ましい姿もありました。

入園、進級に関係なく、この時期の子ども達が泣いたり駄々をこねたりすることは、決して悪いことではありません。一生懸命「私を見て、なんとかして」と自己表現をしているわけですので、先ずは、「子どもの思いを受け止めて」を合言葉に、子ども達のペースで見守っていきましょう。職員は子どもが安心して園生活を送れるよう、日々工夫して教育・保育を進めています。どうぞ安心してお子様を送り出してください。

また、これからは、温度が高い日が続きます。それにより急に体調を崩す場合もありますので、着替えの洋服も通気性の良いものにしてください。また睡眠は、健康のバロメーターといわれるように、身体と心の安定にとても影響を与えます。特に乳幼児は、脳の発達に必要ですので、十分に睡眠がとれるようにしてあげてください。よろしくお願いいたします。